

新棟整備基本計画の概要

1 めざす施設像

地域や企業に開かれた「新たな教育研究・イノベーション共創拠点」の実現

- ▶ 新学部（情報工学部）の設置を契機に、大学の新たなイメージを発信するためのシンボルとする。
- ▶ 1階は地域・企業の課題解決・発展につなげる「イノベーション共創拠点機能」、2～4階は実践的かつ専門的な教育研究活動ができる「教育拠点機能」・「研究拠点機能」を整備する。
- ▶ 港町キャンパスや小松安弘記念館のハブとして大学全体の機能を拡充させ、学びや研究成果の地域への還元、地域・企業との共創による新たな価値を創出できる施設をめざす。

《施設規模》

構造：鉄骨造 又は 鉄筋コンクリート造
階数：4階建て
延床面積：4,404.00 m²



3 計画地の概要

- ▶ 計画地は港町キャンパスに隣接する福山みなと公園の一部（広島県有地）で、港町キャンパスと小松安弘記念館の中間地点に位置する。
- ▶ 港町キャンパスと小松安弘記念館を有機的につなぐとともに、福山みなと公園との動線を確保し、地域との融合・調和を図る。



2 4つの基本方針

- ▶ 必要な基本機能（教育拠点機能・研究拠点機能・イノベーション共創拠点機能）に加え、人と環境に配慮した施設の実現に向けて、次の4つを新棟整備の基本方針とする。

基本方針1 学生の様々な学びを生み出す柔軟性の高い教育拠点機能の整備

- ・多様化する学修形態や将来的な大学院設置を見据えた、柔軟性の高い教育空間を整備する。
- ・安らぎと交流を創出するアメニティ性の高い空間を整備する。

基本方針2 専門的かつ高度な研究拠点機能の整備

- ・学生に加えて地域・企業も活用できるデジタル関連設備を備えた専門的かつ高度な研究空間を整備する。
- ・研究内容の機密性を保持し、機能的かつ安全な研究空間を整備する。

基本方針3 地域や企業に開かれたイノベーション共創拠点機能の整備

- ・地域や企業に開かれ、多様な主体との交流・連携が活発になる自由度の高い共創空間を整備する。

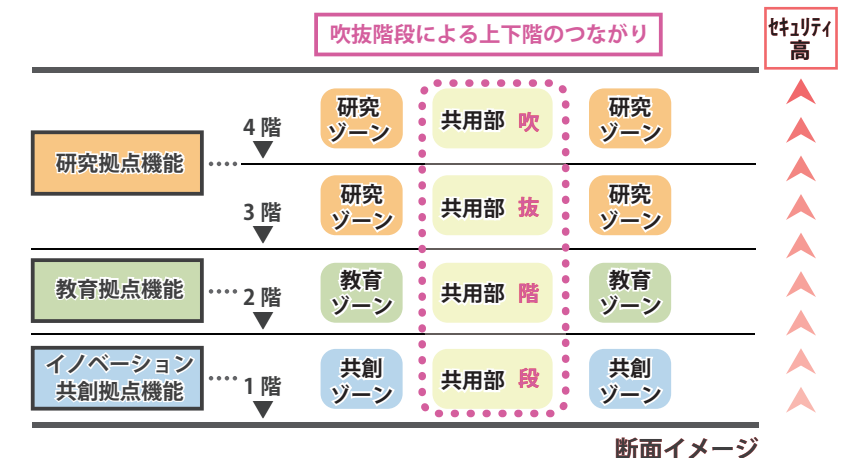
基本方針4 人と環境に配慮した施設の整備

- ・施設の長寿命化により環境への配慮、ライフサイクルコストの低減を図る。
- ・隣接する公園や既存施設等と連携・調和し、ユニバーサルデザインによるだれもが使いやすい施設とする。
- ・自然災害に対して強く、安全な施設とする。

4 階構成

- ▶ 学生や教員、地域・企業の利用用途に配慮した階別ゾーニングとする。
- ▶ 1～4階まで吹抜階段でつなぐことで、採光が降り注ぐ開放的で明るい施設とする。

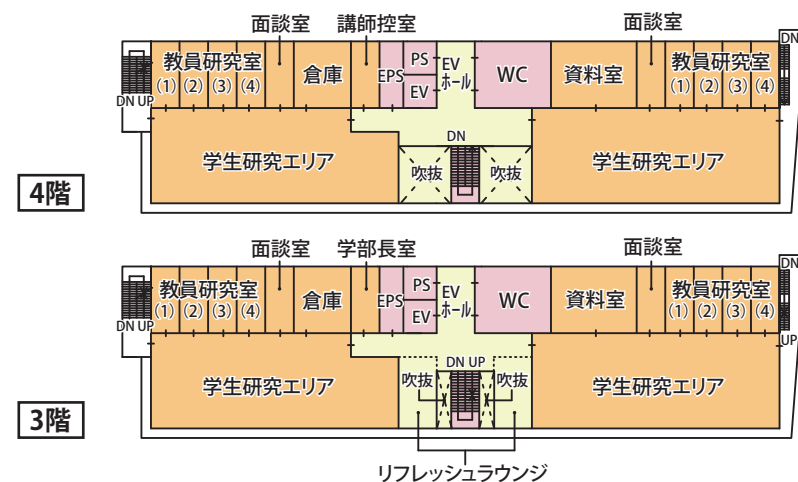
- 研究拠点機能（研究ゾーン）**
研究室をセキュリティ性の高い3～4階に集約
機能的かつ安全な研究環境を形成
- 教育拠点機能（教育ゾーン）**
学修エリアを2階に集約
落ち着いた教育環境を形成
- イノベーション共創拠点機能（共創ゾーン）**
オープンフロアとクロードフロアを区分
だれもが利用しやすい共創環境を形成



5 平面計画

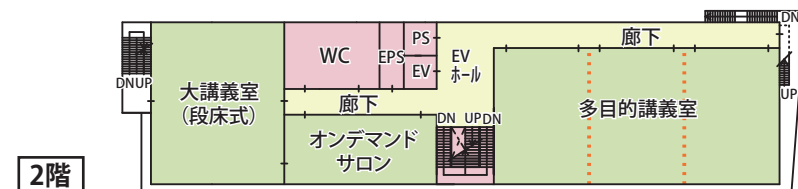
3～4階 研究拠点機能（研究ゾーン）

- ▶ 研究分野の垣根を超えた自由な研究空間と、安らぎと交流を創出するリフレッシュ空間を兼ね備えたフロアとする。
- ▶ 一部の諸室は、リスキリングやリカレント教育への関心・注目の高まり等を見据え、大学院設置等による将来的な人員増加への対応を想定する。



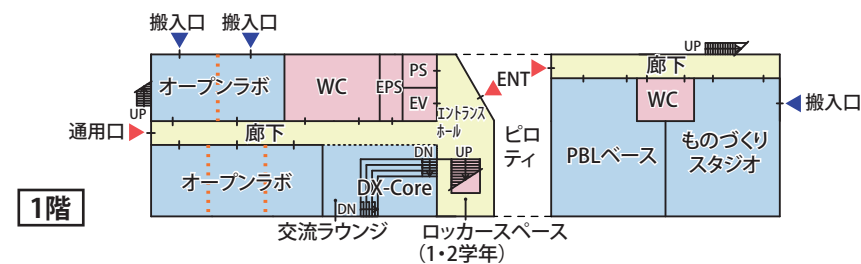
2階 教育拠点機能（教育ゾーン）

- ▶ 企業等で働く方を講師としたアクティブラーニング型の授業やセミナー、オンデマンド授業等の多様な授業形態に対応する柔軟性の高い学修空間を整備し、全学部の学生が利用できるフロアとする。



1階 イノベーション共創拠点機能（共創ゾーン）

- ▶ 地域や企業に開かれた自由度の高いスペースを整備し、多様な主体との新たな交流や連携、イノベーションの創出につなげるフロアとする。
- ▶ 1階は市道や公園に面していることから、施設の一部をガラス張りとすることで学内の雰囲気を見える化し、シンボルとしての情報発信を可能とする。



10 事業方式

- ▶ 想定される事業方式（従来型分離発注方式、ECI方式、DB方式）について、各事業方式のメリット・デメリット及び事業スケジュールの比較検討を行った。
- ▶ 新学部開設に新棟完成が間に合うよう、想定される事業方式の中で最も工期短縮に効果がある基本設計DB方式を採用する。

11 事業スケジュール

[illegible]

6 内観イメージ



▲1階目 DX-Core



▲3～4階 学生研究エリア

7 屋外施設計画

- ▶ 駐車場（計画地東側に6台配置）
- ▶ 駐輪場（計画地西側に屋根付き駐輪場を配置）
- ▶ スロープ（計画地南側の遊歩道から市道に直接接続するスロープを整備）

8 環境への配慮

- ▶ 省エネルギーの推進やライフサイクルコストの低減等、環境に配慮する。
- ①省エネルギーの推進
- ・自然エネルギーの有効活用（自然採光や自然換気の採入れ等）
 - ・エネルギー損失の低減（屋根及び外壁の高断熱化、高効率システムや機器の採用等）
- ②ライフサイクルコストの低減
- ・建物の長寿命化（耐久性の高い材料の採用、修繕・更新が容易な一般普及設備の採用等）

9 ユニバーサルデザイン

- ▶ だれもが安心して快適に利用できるデザインとする。
- ①明快な建物配置計画
 - ・建物中央のピロティ空間に主要な出入口を設置
 - ・出入口をサイン等により、初めて訪れる人にも分かりやすく明示
 - ②快適な移動空間
 - ・主要階段、EVは建物の出入口等から分かりやすい位置に配置
 - ・廊下は車椅子利用者にも配慮し、ゆとりのある通路幅や展開できるスペースを確保
 - ③多様な利用者への配慮
 - ・オストメイトや車椅子対応のバリアフリースイートの設置、段差の解消

12 概算事業費

区分	金額（税込）
用地取得関係費	約 1.7億円
建設工事関係費 （基本設計・実施設計費、工事監理費、工事施工費（外構含む。））	約29.2億円
その他（計画策定等支援、什器・備品費等）	約 3.7億円
合計（税込）	約34.6億円

※今後の社会情勢の変化により変動する可能性がある。